

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 7 日現在

機関番号：32658

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23501209

研究課題名(和文) もうひとつの近代鯨類学「第一鯨学」の形成と展開

研究課題名(英文) Formative and Development of "Dai-ich Geigaku": another modern cetology in Japan

研究代表者

宇仁 義和 (UNI, Yoshikazu)

東京農業大学・生物産業学部・准教授

研究者番号：00439895

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円、(間接経費) 960,000円

研究成果の概要(和文)：本研究によるおもな成果は、1) アンドリュースの1909-1910年の日本周辺での鯨類調査と足取りを明かにし、アメリカ自然史博物館所蔵の未刊行写真の被写体を特定したこと、2) 博物館に保存されている小川鼎三と神谷敏郎関連資料の特定と水族館による海生哺乳類調査事例を収集したこと、3) NHKアーカイブス保存映像から水族館での鯨類飼育や生体の捕獲運搬、座礁漂着鯨類の資料を発掘したことである。

研究成果の概要(英文)：The major results of this study are following, 1) we followed the footsteps of Roy Chapman Andrews around Japan in 1909–1910, whale research in Japan and Korea, and identified the objects of his unpublished photographs that are stored in the American Museum of Natural History; 2) identified the specimens related with Ogawa Teizo and Kamiya Toshiro that are stored in the museums, and compiled field studies on marine mammals by the aquariums in Japan; 3) dug up the moving images from the NHK Archives that recorded keeping cetaceans in a aquarium, taking and transporting cetaceans, and stranding of whales and dolphins

研究分野：複合領域

科研費の分科・細目：科学社会学・科学技術史

キーワード：鯨類学 捕鯨 アーカイブ 写真 映像

1. 研究開始当初の背景

日本の鯨類知識は近世以降の古式捕鯨に基づいた蓄積があり、世界的に見てユニークであるにも関わらず、近代鯨類学の歩みや水族館などでの研究が詳しく知られていない。そこで特に若手研究者に向けて鯨類学史や人脈、海外調査を語ることは有意義と考えた。

たとえば日本の近代鯨類学は学問の基礎を特定の外国人に求めることができず、別パターン草創期があったと考えられる。大村秀雄は、日本のヒゲクジラ研究の始まりはアメリカ自然史博物館 (AMNH) のアンドリュース Roy Chapman Andrews、齒鯨は小川鼎三としたが、アンドリュースが 1910 年に調査した内容や足取り、受入者や国内研究への影響については調査されたことがない。彼の後、大村がヒゲクジラ研究に着手した 1930 年代末まで、20 年以上の空白期間があり、1910-20 年代の鯨類研究の状況について不明なことが多い。齒クジラ研究では小川鼎三の後、西脇昌治以降の人脈や国内外への影響を概括した報告は見られない。また上記の研究者が用いた標本や記録類の所在も明確ではない。

2. 研究の目的

日本の近代鯨類学の歴史的展開について、文献と聞き取り、写真や映像から実証的に解明することである。内容は、1) 1910 年に初来日し、東アジアで初めてヒゲクジラ研究を行ったアンドリュースの日本での活動とその影響の解明、2) 日本の近代鯨類学草創期は、近世鯨類学を科学的に検討することで独自に成立したという仮説の検証、3) 日本の鯨類はふたつに分かれて展開したが、そのうち基礎生物学たる「第一鯨学」の研究史、4) 水族館での鯨類飼育は、「第一鯨学」の研究者がアメリカからマリランドの思想を導入することで本格化した、その経過の詳述である。

3. 研究の方法

研究方法は、資料調査：文献資料の収集と実物資料のリスト化、資料発掘：所在不明資料の搜索と特定、来歴不明資料の来歴特定、文献調査：既存文献や史料の比較検討、映像資料調査：文献を補完する目的で関係映像を視聴しメタデータを収集する。

おもな調査対象は、アメリカ自然史博物館、スミソニアン協会国立自然史博物館、国立科学博物館、東京大学総合研究博物館、太地町立くじらの博物館、NHK アーカイブス等である。

4. 研究成果

(1)ロイ・チャップマン・アンドリュースの日本での活動 1909年8月にニューヨークを出発し、翌年11月に帰着するまでのアンドリュースの旅程を明かにすることができた。1910年に行われた紀伊大島と鮎川、1912年の朝鮮の蔚山での鯨類調査について、調査個体や採集した標本が判明した。またアメリカ自然史博物館とスミソニアン協会国立自然史博物館でのアンドリュース標本の保存と展示の状況を把握した。加えて、アンドリュースが1910年前後に撮影した、横浜、日光、神戸、京都、門司、台湾、那覇、土佐清水、瀬戸内海、紀伊大島、塩釜、鮎川の写真について、被写体を特定し、那覇と土佐清水についてはそれぞれ報告を作成した。

(2)日本の近代鯨類学草創期 1930年代までの動物学雑誌に掲載された記事や論文を収集し、記述内容が近世鯨類知識からの影響を受けていることを確認した。アンドリュースと日本の科学界の接点については、永澤六郎との手紙1往復分を見つけたほか、雑誌記事と手紙から谷津直秀と面会した可能性を得た。

(3)「第一鯨学」の展開 東京大学総合研究博物館の収蔵資料から小川鼎三収集標本や神谷敏郎関連資料を特定した。国立科学博物

館収蔵鯨類標本から小川標本を区別した。水族館では、鳥羽水族館によるジュゴン調査や鴨川シーワールドでの国際シンポジウムなど、注目すべき活動に関する文献の収集と聞き取りを行った。NHK アーカイブの保存映像を用い1910-80年代の座礁漂着鯨類への対処の状況を調べ、1970年代までの漂着鯨類は食糧として取り扱われることが多かったことが確認された。

(4) マリンランド導入の歴史 NHK アーカイブの保存映像を用い、1930~1970年代の水族館での鯨類飼育や輸送、野生個体の捕獲の状況を調べた。鯨類飼育は入り江や生けすのように海面の一部を利用する形で始まったこと、飼育個体の確保手段としてイルカ漁の存在を前提としていたことが明らかとなった。文献資料からは標本とグラフィックからなる水族館の教育展示の原型は1960年頃に現れていたことが読み取れた。

研究成果の特徴は、文献で紹介された標本を確認したこと、文献でのみ知られていた事象の映像を発掘したこと、国内では確認されていない1910~20年代の研究者や捕鯨関係者の手紙や1910年当時の地方の写真を見つけたなど、新資料の発見や資料の特定にある。これらは科学史や生物学に留まらず、地方史や文化人類学などにとっても新たな研究資源として貴重なものとする。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

宇仁義和、中村淳子、R.C.アンドリュースが1910年に撮影した土佐清水、高知県立歴史民俗資料館研究紀要、査読無、17巻、掲載決定

宇仁義和、ロバート・ブラウネル、櫻井敬人、ロイ・チャップマン・アンドリュースの日本と朝鮮での鯨類調査と1909-1910年の行程、日本セトロロジー研究、査読有、24号、掲載決定

宇仁義和、当山昌直、岸本弘人、R.C.アンドリュースが1910年に撮影した那覇の写真、沖縄史料編集紀要、査読無、37巻、2014、69-84

宇仁義和、NHK アーカイブスの文化人類学的調査の可能性、北海道民族学、査読有、10巻、2014、77-86

櫻井敬人、鮎川、紀伊大島における探検家R.C.アンドリュースの鯨類調査、セトケンニューズレター、査読無、30号、2012、4-5

[学会発表](計5件)

宇仁義和、谷田部明子、大隅清治、NHK アーカイブス保存映像の鯨類スタンディング記録、日本セトロロジー研究会、2014年5月25日、愛媛大学

宇仁義和、NHK アーカイブスの保存映像に見るアイヌと樺太先住民、そして捕鯨、北海道民族学会、2013年10月26日、北海道立北方民族博物館

宇仁義和、櫻井敬人、ロバート・ブラウネル、アメリカ自然史博物館のロイ・チャップマン・アンドリュース収集鯨類標本、日本セトロロジー研究会、2013年5月26日、富山市科学博物館

宇仁義和、櫻井敬人、ロバート・ブラウネル、R.C.アンドリュースが見た鮎川と紀伊大島、日本セトロロジー研究会、2012年6月3日、マリニピア松島水族館

宇仁義和、櫻井敬人、ロイ・チャップマン・アンドリュースの日本と朝鮮での足跡、日本セトロロジー研究会、2011年6月18日、名古屋港水族館

6 . 研究組織

(1)研究代表者

宇仁 義和 (UNI, Yoshikazu)

東京農業大学・生物産業学部・准教授

研究者番号：00439895

(2)研究分担者

(3)連携研究者

(4)研究協力者

櫻井 敬人 (SAKURAI, Hayato)

太地町歴史資料室・学芸員

ロバート・ブラウネル (Robert Brownell

Jr.)

アメリカ海洋大気局・上級研究員